

## 関西支部勉強会レポート

### 第 56 回関西支部勉強会

市民は科学を変えることができるのか：

「つながり」を「ちから」にする方法について

**日時** 2017 年 1 月 21 日（土） 13:00-14:30 ぐらい

**場所** 京都大学 吉田泉殿

**ゲスト** 上田 昌文さん（NPO 法人 市民科学研究室 代表理事）

**人数** 8 人

今回の関西支部勉強会は土曜の午後に実施しました。

和気あいあいと勉強会を開催することができました。

今日は、京大で働いている人、市民科学研究室の会員の人、京都市内から足を

運んでくれた人などが集いました。

14 時すぎに勉強会が一旦中締めとなった後にも上田さんへの熱心な質問が続き、

勉強会は 15 時過ぎまで続きました。

## 関西支部勉強会レポート

### だいたいの流れ：

-13:00

ゆるゆる集まる。

13:00-13:20

参加者の自己紹介

13:20-14:20

上田さんのお話

14:20-15:00 ぐらい

質疑応答

### お話の詳細：

#### 1. 市民科学研究室の理念

- 会員はどれほど多くない(300名弱)。海外の有力な環境や科学に関わるNPOなどと比べると2桁くらい違う。
- どのようにして担い手を育て、活動費を捻出し、活動を継続していくかとい

## 関西支部勉強会レポート

う課題を常に抱えている。

### 2・市民科学研究室の特徴

- 市民の視点から科学技術をとらえ直すこと。つまり、市民の問いかけから出発して、素人の知恵と力を結集して「市民にとってよりよい科学技術とは」を考え、提言していくこと。

<http://www.shiminkagaku.org/csij-first-time/aboutus/>

- 科学リテラシーや科学コミュニケーションに関わる活動、調査研究、市民科学講座や研究会など多岐にわたる活動を行っている。

### 3. 東日本大震災に関して

- 震災以前から様々な専門家との人的ネットワークを築いていたため、東日本大震災直後から様々な活動に対応することができた。
- 震災関連の水インフラやエネルギーなどの諸問題での、あるいは原発事故の放射線健康影響についての連続講座の実施、福島の子も達への累積線量計の配布活動の提唱、種々の食品の放射能汚染濃度の推移の分析と霞ヶ浦圃場

## 関西支部勉強会レポート

での汚染低減化作業への支援、チェルノブイリ事故関連の『ウクライナ政府報告書』の翻訳、「放射線健康リスクに関する専門家フォーラム」の実施、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンとの共同で「放射線リテラシーワークショップ」の福島県の中学校での実施、など。

[http://www.shiminkagaku.org/301010\\_20130326/](http://www.shiminkagaku.org/301010_20130326/)

<http://www.shiminkagaku.org/forum/>

<http://www.shiminkagaku.org/radial-ray/>

- 震災時、ものごとが複雑に絡まり錯綜した。対処や解決に科学の専門性が求められるような事柄については、震災が起きてから対応するのでは間に合わない。日頃から対応力を鍛えておかななくては。

### 4. 具体的な活動の紹介

- 生活習慣病対策を扱うゲーム「ネゴバト」

<http://www.shiminkagaku.org/negobato/>

- 主婦や妊娠・出産・子育てを抱える女性からの疑問に、科学的な知識をふまえて答えるウェブページ

## 関西支部勉強会レポート

<http://www.c-mam.co.jp/special2/life/eco/faq/002.php>

<http://www.babycom.gr.jp/eco/kodomo/index.html>

- 昔の風景と今の風景をタブレット上で重ねて見る「思い出のぞき窓」やスマホを使ったGPSに連動した音声ガイドといったITシステムやアプリケーションを活用した「まち歩き」事業

[http://www.shiminkagaku.org/202000\\_20170301/](http://www.shiminkagaku.org/202000_20170301/)

<http://www.shiminkagaku.org/wp-content/uploads/30203020161220.pdf>

f

- 文京区や葛飾区での防災ワークショップ

[http://www.shiminkagaku.org/302020\\_20160721/](http://www.shiminkagaku.org/302020_20160721/)

### 5・活動を行う上で大切な3つのこと

- 1) 問われていない・解かれていない重要な問いがあることを自覚すること。(そして問題発生現場に出かけて、自らの足を使ってデータをとること。)
- 2) 仲間との自由で開かれた討議と学びの場があり、研究成果を外にむけて発表する機会があること。

## 関西支部勉強会レポート

3) 生活とコミュニティを基点にしたアプローチを重視すること。

<http://www.shiminkagaku.org/30303020070904/>

6・「地域」から科学・技術をよりよく方向づけるーその9つの方法

1) 地域で電力 OFF の日を作ること

2) 地域総合科学教育

3) 地域の生態の徹底調査

4) 土地の公有化と若者誘致

5) 地域の保健の核としての相談医と健康談話会

6) 地域内の各交通（人の移動と物流）の相互連携と複層的な利用

7) 地域のためのサイエンスショップ&サイエンスカフェの統合的实施

8) 地域間（交換）留学の推進

9) 地域防災の確立

[http://www.shiminkagaku.org/302000\\_20140128/](http://www.shiminkagaku.org/302000_20140128/)

[http://blogs.shiminkagaku.org/shiminkagaku/csij\\_20th\\_symposium\\_ueda.pdf](http://blogs.shiminkagaku.org/shiminkagaku/csij_20th_symposium_ueda.pdf)

## 関西支部勉強会レポート

### 7. その他

- 欧米に比べると日本には寄付の文化がない。それでも活動趣旨に理解を示し、寄付をしてくれるひとたちが一定の割合でいる。
- NPO 法人が就職先の候補になるような、それくらいの財政力をもてることが望ましい。
- 大田区地域包括センターの企業の連続講座「みまーも」は、企業・市民・地域にとって win-win な仕組みが出来上がりつつある。企業との連携を考えることも今後重要になる。

[http://www.shiminkagaku.org/30203020170219\\_03/](http://www.shiminkagaku.org/30203020170219_03/)

### 8. 質疑応答や議論など

Q. 活動を行う上で地域差を感じる？どこの地域でもできるような仕掛けや考え方というのはあるか？

A. 市民研が活動する文京区は勉強好きのご老人や教育熱心な親御さんが多い。

独特の地域性はあるかもしれない。でも例えば、地方大学はどこの地域にもあ

## 関西支部勉強会レポート

る。大学を中心とした地域づくりのモデルができれば、いろいろな地域で応用できるのでは。

Q. サイエンスショップが日本の大学の中であまりきちんと機能していないのはなぜか？

A. 日本の大学がその地域からきちんと支持されていない。地域で担うべき大学の役割を明確にしなくては。まずは地域の市民の疑問に答えるなんらかの場を大学の中に設けることで大学の信用度を上げてみてはどうか。一方で、そういった活動は大学教員の出世に直接つながらないのでなかなか広がりにくいという面はある。

Q. 科学と市民の間のコーディネーターは誰がになうべきか？

A. ひとりではだめ。様々な分野の専門家との連携を組む、複数のメンバーからなるコーディネーターのグループを作って活動していくことが大切。

Q. 上田さんの科学リテラシー・科学コミュニケーションの定義は？

## 関西支部勉強会レポート

A. 市民が「科学技術に対してまっとうな文句・注文をつけることできる」のが科学リテラシーであり、「それを口に出して専門家や企業や役人・官僚とまっとうな議論をする」のが科学コミュニケーション。

科学コミュニケーション研究会 関西支部有志

第 56 回 記録担当：一方井祐子（京都大学）

第 56 回 運営担当：一方井祐子（京都大学）、加納 圭（滋賀大学/京都大学）、

水町 衣里（大阪大学/京都大学）、吉澤 剛（大阪大学）